

## 「ペルセウス座流星群(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

流星群の名称は、「輻射点がどの星座に位置するか」ということで決まっている。ペルセウス座流星群の場合、たまたまペルセウス座に輻射点が位置するので、そのような名称になった。子どもの誤解(質問)にゆくあるものとして・・・

「毎年流れ星になって飛んだら、いつかペルセウス座はなくなっちゃうんですか？」

「ペルセウス座流星群は、ペルセウス座からはみ出して飛ぶこともあるんですか？」

いずれも面白い質問である。上段はほとんど冗談のような質問で、流星はもちろん、星座を形成する恒星が飛ぶ現象ではない。下段は正解で、ペルセウス座から飛び出して飛ぶことがある・・・というよりも、輻射点を中心に、天球上のあらゆる方向・座標に飛ぶと行ったほうが正しいだろう。



「北斗七星を横切るペルセウス座流星」 C.Tanaka

流星は一瞬の天文現象なので、肉眼では「流星の色」を感じるの難しい(ほとんど不可能)。しかし、写真には、流星の軌跡(天球上の流星軌道)が線状に写るので、色も記録されることが多い。下の写真は、北斗七星を横切った流星の拡大写真である。流星は右上→左下に飛んだので、緑→白→桃色と一瞬で変化したことが記録されている。



発色のメカニズムについては、大気中の気体分子が密接に関わっているが、緑(光り始め)が上層大気、桃色(消滅)はそれよりも下層の大気であることは間違いない。この色の変化は、他の流星群や、孤立流星でも同じ傾向が見られる。一度、カメラに分光器を取り付けて、本格的に撮影してみたい。



「しし座流星群の流星」 富士山麓 C.Tanaka

しし群の流星は、消滅直前に爆発を伴うものが多い。